

6月は『心のきずなを深める』月間 「たらいの水」という話

水を自分のほうに引き寄せようとするとうこうへ逃げてしまうけれども、相手にあげようと押しやれば自分のほうに戻ってくる。だから人に譲らなければいけないと・・・。



この話には、前段があります。

人間は皆空っぽのたらいのような状態で生まれてくる。つまり最初は財産も能力も何ももたずに生まれてくる。そして、そのたらいに自然やたくさんの人たちが水を満たしてくれる。その水のありがたさに気づいた人だけが他人にもあげたくなり、誰かに幸せになってほしいと感じて水を相手のほうに押しやろうとする。

『幸せというのは、自分はもう要りませんと他人に譲ってもまた戻ってくるし、絶対に自分から離れないものだけれども、その水を自分のものだと考えたり、水を満たしてもらうことを当たり前と錯覚して、「足りない足りない、もっともっと」とかき集めようすると、幸せが逃げていくんだ』というたとえ話です。

二宮尊徳先生の生きざまからの教え

江戸時代末期には600もの村を再興し、亡くなるときには私有財産はほとんどもっていなかったそうです。ただただ人々のために尽くした人生でした。

笑顔で接していると笑顔が返ってくる。

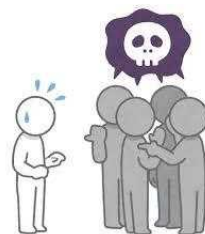
優しく接していると優しさが返ってくる。

嫌な顔をしていると嫌な顔が返ってくる。

けんかごしに接するとけんかになる。

悪口を言うと・・・・・・・・・・。

あたえたものが返ってきます。



皆さんにはそんな経験はありませんか？

すべては自分の考え方や行動にあります。

友だちや家族、身近な人との関係は自分自身が作り上げていくものです。

学習やスポーツも大切ですが、生きる上で一番は人間関係をつくる力だと思います。

身近な人を大切にしましょう